

八郎(はちろう)

登録番号：第8562号

登録年月日：平成12年12月22日

出願者：農林水産省果樹試験場（茨城県つくば市藤本2-1）

育成者：吉田雅夫 京谷英壽 西田光夫 山口正己 小園照雄 垣内典夫 中村ゆり 西村幸一 大宮あけみ 土師 岳

石川祐子 福田博之 田中

敬一 三宅正則 木原武士

八重垣英明 鈴木勝征 朝

倉利員

来歴：「地藏梅」の自然交雑実生

育成地：茨城県新治郡千代田町（農林水産省果樹試験場）

特性

■栽培特性

樹は開張性で、樹勢は中程度である。枝条の発生は中程度で、短果枝の発生は良好である。花は単弁、白色で、花粉は多い。自家和合性が高く結実が安定しているため、豊産性である。

開花期の早晩は中で、「南高」の1週間程度後になる。なお育成地での開花期は3月10日頃である。満開後90日から100日で収穫され、「南高」よりも1週間以上早く収穫され、育成地での収穫期は6月20日過ぎとなる。

■果実特性

果実は中ウメとしてはやや小さめで、15~20gである。果形は円形で玉揃いは比較的良好である。果皮は着色が少なく、地色は淡緑色から淡黄緑色である。ヤニ果はほとんど発生しない。核は粘核で2g前後である。

滴定酸含量は4.5~5.0%である。果肉の粗密は中であるが、梅干し製品の品質は比較的優れている。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

既存の主要品種と比較して、特に病虫害抵抗性は劣らないため、慣行防除で問題はないと思われる。

自家和合性が高く量産性であるが、樹勢が衰えると果実の小玉化などが問題になるので、側枝の切り返しや予備枝の確保などを行い、樹勢の維持を心がける必要がある。

■地域適応性

東北地方から九州のウメ産地で栽培が可能である。自家和合性が高く量産性であり、従来、中ウメ品種の栽培が困難であった東北地方でも、安定して高い収量が得られる。従ってこれまでウメの結実が不安定であった東北地方をはじめとする広い地域での普及が期待される。青梅用としては果実が小さいが、梅干し製品の品質は良好なので漬け梅に適した品種と考えられる。

(土師 岳)